

第16回

ちよっぴりいい話、伝えます。

高校生福祉文化賞 エッセイコンテスト

あなたの体温を、伝えてほしい。



高等学校の先生方へのご案内

授業の一環として役立てていただいています

国語表現
の時間に

小論文の
指導に

福祉の
時間に

家庭科の
時間に

Pick Up!

2020年度から導入される「大学入学共通テスト」

「大学入学共通テスト」では、記述式問題が新たに導入されるなど、「知識・技能」に加えて「思考力・判断力・表現力」が問われるようになります。その他にも、エッセイ（小論文）やプレゼンテーションなどを使った選抜方法が検討されており、新入試指導において、エッセイがより注目されています。

◆主催 / 日本福祉大学、朝日新聞社

◆後援 / 文部科学省、愛知県教育委員会、日本青年団協議会、日本赤十字社、ベネッセグループ(株)進研アド



地域に根ざし、世界をめざす「ふくしの総合大学」

日本福祉大学

読む力、書く力を磨くと同時に、 一番大事なものは「心」を育てること。

本や新聞を読む機会が減っている高校生に向けて、新聞スクラップや調べ学習を通じて広く社会に問題意識を持たせ、人のあり方・生き方を考えさせようと取り組む滋賀県立八幡高等学校。「第15回高校生福祉文化賞エッセイコンテスト」で学校賞と優秀賞を受賞した同校の藤岡先生に、授賞式後にお話を伺いました。



滋賀県立八幡高等学校
藤岡 紀子 先生

総合的な学習「人となる」で、 社会のさまざまな問題に関心を持つ。

本校は普通科の高校ですが、2年生から文系・理系に加え、看護系も選択できるという特色があります。また、総合的な学習を「人となる」と呼んでおり、1年では「生と性」「人権」をテーマに実習やディベートなどを取り入れ、2年では「新聞切り抜き作品作り」に取り組んでいます。

エッセイコンテストは、6月初めの特別活動の時間を利用して、全校の約7割が毎年参加しています。点数評価をする授業ではないので、生徒の文章はそのまま修正せずに応募しています。ですから出来ばえはともかく、生徒がのびのびと素直な気持ちを表現していると思います。いきなり課題を与えられて書くのは難しいですが、ふだんから社会に目を向け、何かしら感じる心を持っていた生徒の作品が高く評価されたのではないのでしょうか。



クラス全員が同じ読書体験を共有し、 読解力と文章力を向上させる。

私自身は国語の教員として、現代文の毎授業開始の10分間を読書の時間にあてています。『風が強く吹いている』『カラフル』『生きるぼくら』『アントキノイノチ』など、クラス全員が同じ作品を読み、互いにスピードを競ったり感想を述べ合ったりしています。読むのが遅い生徒もいますが、徐々に読書習慣を身につけ、分厚い1冊の本を最後まで読みきった達成感が、次の読書への励みや楽しみにつながります。日々の小さな積み重ねが、じわじわと読解力や文章力を高めていきます。

そして何よりも大事にしたいのが精神的な成長です。作品に対して共感したところや自分に照らし合わせて考えたことをまとめるうちに、多様な生き方や世界観を学び「優しい心」を持つ。そうした心の成長の一助になればと願って、今後も読む力や書く力を育てていきたいと思っています。

滋賀県立八幡高等学校(滋賀県近江八幡市)



1955年、旧滋賀県立八幡高等学校より普通科を分離して滋賀県立八幡高等学校として開校。「人格の陶冶」「学力の向上」「心身の錬磨」を教育目標に、国家社会に貢献する人材を育成する。

12万人以上の「言葉」を受け止めて、今年も第16回を迎えます。

高校生福祉文化賞エッセイコンテストは、日本福祉大学の学園創立50周年記念事業の一環として、2003年度に始まりました。次代を担う若いみなさんに新鮮な目で「ふくし」を見つめ直してほしいという願いが込められています。これまでに、延べ12万人を超える高校生たちの言葉を受け止めてきました。本企画への参加が、応募者一人ひとりにとって、改めて「ふくし」に向き合う機会になれば、主催者にとってこれほどうれしいことはありません。

第15回応募結果

第15回高校生福祉文化賞エッセイコンテストに寄せられた応募作品総数は9,204点。最も応募が多かったのは、分野①「ひと・まち・暮らしのなかで」でした。高校生がそれぞれの思いでつづった「36℃の言葉」——体温の伝わるエッセイの中から審査の結果、最優秀賞4作品、優秀賞8作品、審査員特別賞4作品、計16作品、学校賞3校に以下のみなさんが選ばれました。なお、入賞した作品の全文は日本福祉大学ホームページに掲載しています。また、ご希望の方には、入賞作品集を無料でお送りします。

●受賞者一覧

最優秀賞

- 分野① 秋山 瑞希さん 高崎健康福祉大学高崎高等学校2年
- 分野② 清水 将也さん 北海道札幌南高等学校1年
- 分野③ 新貝 彩菜さん 盈進高等学校2年
- 分野④ 小松 英里佳さん 日本女子大学附属高等学校2年

優秀賞

- 分野① 伊藤 美珠希さん 神奈川県立上溝高等学校2年
杉林 夏希さん 北海道札幌旭丘高等学校3年
- 分野② 矢野 日和子さん フェリス学院高等学校2年
畦元 海帆さん 滝高等学校3年
- 分野③ 小柴 悠太郎さん 桐蔭学園高等学校2年
松岡 愛香ジャズミンさん 滋賀県立八幡高等学校1年
- 分野④ 植木 瑞希さん 新潟県立柏崎総合高等学校3年
貝沼 和花さん 新潟県立加茂農林高等学校3年

審査員特別賞

- 分野① 渡会 由貴さん 筑波大学附属聴覚特別支援学校高等部2年
- 分野② 中村 菜月さん 兵庫県立西宮南高等学校2年
- 分野③ 中道 香澄さん 和歌山県立田辺高等学校1年
- 分野④ 井出 楓華さん 浜松修学舎高等学校3年

学校賞

- 福岡県立輝翔館中等教育学校
- 滋賀県立八幡高等学校
- 青森県立八戸北高等学校

●分野別応募数内訳

総数 **9,204**点

(団体応募176校 9,100点)
(個人応募97人 104点)

- 分野① ひと・まち・暮らしのなかで 3,725点
- 分野② スポーツとわたし 2,334点
- 分野③ 日常のなかでつながる世界 1,257点
- 分野④ 社会のなかの「どうして?」 1,888点

●都道府県別応募数内訳



第15回応募高等学校一覧 (都道府県内50音順) ※高等学校名は、作品応募時の校名を記しています。

- 北海道
 - 北見藤女子高等学校
 - 札幌協学学園高等学校
 - 函館白百合学園高等学校
 - 双葉高等学校
 - 北海道札幌旭丘高等学校
 - 北海道札幌南高等学校
 - 北海道斜里高等学校
 - 北海道寿都高等学校
 - 北海道根室高等学校
 - 北海道登別明日中等教育学校
 - 北海道函館工業高等学校
 - 藤女子高等学校
 - 立命館慶祥高等学校
- 青森県
 - 青森県立田名部高等学校
 - 青森県立八戸北高等学校
 - 青森県立八戸工業高等学校
 - 青森県立百石高等学校
 - 八戸学院光星高等学校
 - 八戸工業大学第一高等学校
- 岩手県
 - 岩手県立久慈高等学校
 - 岩手県立軽米高等学校
- 宮城県
 - クラーク記念国際高等学校 仙台キャンパス
 - 宮城県亘理高等学校
- 福島県
 - 第一学院高等学校 郡山キャンパス
 - 福島県立相馬高等学校
 - 福島県立福島高等学校
- 茨城県
 - 茨城県立牛久学進高等学校
 - 茨城県立小瀬高等学校
 - 茨城県立土浦第一高等学校
 - 茨城県立水戸南高等学校
 - 常総学院高等学校
 - つくば開成高等学校 守谷学習センター
 - つくば秀英高等学校
- 群馬県
 - 桐生市立商業高等学校
 - 群馬県立安中総合学園高等学校
 - 群馬県立利根実業高等学校
 - くま国際アカデミー高等部
 - 高崎健康福祉大学 高崎高等学校
- 栃木県
 - 栃木県立真岡北陵高等学校
- 埼玉県
 - 埼玉県立浦和第一女子高等学校
 - 埼玉県立杉戸農業高等学校
- 千葉県
 - 千葉県立長生高等学校
 - 千葉県立松尾高等学校
 - 千葉県立松戸向陽高等学校
 - 千葉県立八千代東高等学校
 - 千葉県立四街道高等学校
 - 筑波大学附属 聴覚特別支援学校
- 東京都
 - 跡見学園高等学校
 - KTC 中央高等学校
 - 晃華学園高等学校
 - 昭和女子大学附属 昭和高等学校
 - 成蹊高等学校
 - 中央大学高等学校
 - 東京都立足立東高等学校
 - 東京都立小松川高等学校
 - 東京都立上水高等学校
 - 東京都立新宿山吹高等学校
 - 東京都立竹早高等学校
 - 東京都立東久留米 総合高等学校
 - 東京都立南多摩 中等教育学校
 - 東京都立美原高等学校
 - 東京都立武蔵高等学校
 - 東京農業大学第一高等学校
 - 桐朋女子高等学校
 - 日本放送協会学園高等学校
 - 八洲学園高等学校 池袋キャンパス
 - 早稲田大学系属 早稲田実業学校高等部
 - 早稲田大学高等学院
- 神奈川県
 - 神奈川県立愛川高等学校
 - 神奈川県立上溝高等学校
 - 神奈川県立相模原高等学校
 - 神奈川県立逗葉高等学校
 - 神奈川県立津久井高等学校
 - 神奈川県立平塚 中等教育学校
 - 神奈川県立平塚ろう学校
 - 神奈川県立藤沢 総合高等学校
 - 聖セシリア女子高等学校
 - 洗足学園高等学校
 - 捜真女学校高等学部
 - 中央大学附属横浜高等学校
 - 桐蔭学園高等学校
 - 日本女子大学附属高等学校
 - フェリス学院高等学校
 - 横浜雙葉高等学校
- 新潟県
 - 新潟県立柏崎高等学校
 - 新潟県立柏崎総合高等学校
 - 新潟県立加茂農林高等学校
 - 新潟県立燕中等教育学校
 - 新潟県立直江津 中等教育学校
- 富山県
 - 富山県立高岡第一高等学校
 - 富山県立志貴野高等学校
 - 富山県立大門高等学校
 - 富山県立高岡西高等学校
 - 富山県立新川みどり野高等学校
 - 富山県立南砺福光高等学校
 - 富山国際大学付属高等学校
- 石川県
 - 金沢高等学校
 - 金沢大学人間社会学域 学校教育学類附属高校
- 福井県
 - 福井県立足羽高等学校
- 山梨県
 - 身延山高等学校
 - 山梨県立上野原高等学校
- 長野県
 - 創造学園高等学校
 - 長野県飯田風越高等学校
 - 長野県篠ノ井高等学校
 - 長野県松本壺ヶ崎高等学校
 - 長野県丸子修学館高等学校
 - 長野女子高等学校
 - 松本第一高等学校
- 岐阜県
 - 岐阜県立可児工業高等学校
 - 岐阜県立郡上高等学校
 - 多治見西高等学校
- 静岡県
 - 加藤学園高等学校
 - 静岡県立熱海高等学校
 - 静岡県立掛川東高等学校
 - 静岡県立静岡商業高等学校
 - 静岡県立駿河総合高等学校
 - 静岡県立中央特別支援学校
 - 静岡県立天竜高等学校
 - 静野校舎
 - 静岡県立遠江総合高等学校
 - 静岡県立浜松東高等学校
 - 静岡県立富士宮北高等学校
 - 静岡県立三島南高等学校
 - 静岡雙葉高等学校
 - 星陵高等学校
 - 日本大学三島高等学校
 - 浜松修学舎高等学校
- 愛知県
 - 愛知教育大学附属高等学校
 - 愛知県立旭丘高等学校
 - 愛知県立一宮北高等学校
 - 愛知県立一宮南高等学校
 - 愛知県立岡崎東高等学校
 - 愛知県立蒲郡高等学校
 - 愛知県立瀬戸高等学校
 - 愛知県立東海商業高等学校
 - 愛知県立桃陵高等学校
- 愛知県
 - 愛知県立豊田東高等学校
 - 愛知県立南陽高等学校
 - 愛知県立豊丘高等学校
 - 桜花学園高等学校
 - 愛知県立西宮南高等学校
 - 東邦高等学校
 - 名古屋市立西陵高等学校
 - 日本福祉大学付属高等学校
 - 光ヶ丘女子高等学校
 - 藤ノ花女子高等学校
 - 名城大学附属高等学校
- 三重県
 - 桜丘高等学校
 - 鈴鹿工業高等専門学校
 - 徳風高等学校
 - 三重県立明野高等学校
 - 三重県立伊賀白鳳高等学校
- 滋賀県
 - 滋賀県立北大津高等学校
 - 滋賀県立八幡高等学校
 - 滋賀県立栗東高等学校
- 京都府
 - 京都共栄学園高等学校
 - 京都映星高等学校
 - 京都市立伏見工業高等学校
 - 京都市立紫野高等学校
 - 京都市立洛陽工業高等学校
 - 京都聖母学院高等学校
 - 京都府立加悦谷高等学校
 - 京都府立北桑田高等学校
 - 京都府立京都八幡高等学校 南キャンパス
 - 京都府立園部高等学校
 - 京都府立東稜高等学校
 - 京都府立嵯峨山高等学校 弥栄分校
 - 同志社女子高等学校
 - 花園高等学校
- 大阪府
 - 大阪市立南高等学校
 - 大阪府立市岡高等学校
 - 大阪府立今宮工科高等学校
 - 大阪府立真なみはや高等学校
 - 大阪府立枚方高等学校
 - 大阪府立三島高等学校
 - 開明高等学校
 - 関西創価高等学校
 - 帝塚山学院泉ヶ丘高等学校
 - 箕面自由学園高等学校
 - ルネサンス大阪高等学校
- 兵庫県
 - 伊丹市立伊丹高等学校
 - 神戸市立基合高等学校
 - 神戸山手女子高等学校
 - 園田学園高等学校
 - 兵庫県立芦屋高等学校
 - 兵庫県立伊丹北高等学校
- 高知県
 - 高知県立宿毛高等学校
 - 高知県立高岡高等学校
 - 土佐女子高等学校
 - 明德義塾高等学校 堂ノ浦キャンパス
- 福岡県
 - 杉森高等学校
 - 福岡県立稲築志耕館高等学校
 - 福岡県立輝翔館 中等教育学校
 - 福岡県立三浦高等学校
- 奈良県
 - 帝塚山高等学校
- 和歌山県
 - 和歌山県立神島高等学校
 - 和歌山県立田辺高等学校
 - 和歌山県立和歌山東高等学校
- 鳥取県
 - 鳥取県立鳥取湖陵高等学校
 - 米子北高等学校
- 島根県
 - 出雲西高等学校
 - 島根県立松江農林高等学校
- 岡山県
 - 岡山県立岡山芳泉高等学校
 - 岡山県立倉敷商業高等学校
 - 岡山県立倉敷中央高等学校
 - 岡山県立興陽高等学校
 - 岡山県立高梁高等学校
 - 岡山県立東岡山工業高等学校
 - 岡山県立真庭高等学校 落合校地
 - 岡山県立和気関谷高等学校
 - 岡山市立岡山後楽館高等学校
 - 倉敷市立倉敷翔南高等学校
 - 清心女子高等学校
- 広島県
 - 盈進高等学校
 - 広島県立庄原実業高等学校
 - 広島県立三次青陵高等学校
- 山口県
 - 柳井学園高等学校
 - 山口県立山口農業高等学校
- 徳島県
 - 徳島県立池田高等学校辻校
 - 徳島市立高等学校
- 愛媛県
 - 愛媛県立南宇和高等学校
 - 済美高等学校
 - 新田高等学校
- 兵庫県
 - 兵庫県立神戸高等学校
 - 兵庫県立視覚特別支援学校
 - 兵庫県立龍野北高等学校
 - 兵庫県立鳴尾高等学校
 - 兵庫県立西宮南高等学校
 - 兵庫県立東播磨高等学校
 - 兵庫県立姫路工業高等学校
 - 兵庫県立三木東高等学校
 - 兵庫大学附属須磨ノ浦高等学校
 - 武庫川女子大学附属 高等学校
- 長崎県
 - 創成館高等学校
 - 長崎県立清峰高等学校
 - 長崎県立長崎西高等学校
- 熊本県
 - 九州学院高等学校
 - 熊本県立芦北高等学校
- 大分県
 - 大分高等学校
- 宮崎県
 - 宮崎県立高城高等学校
 - 宮崎県立延岡星雲高等学校
 - 宮崎県立福島高等学校
 - 宮崎県立宮崎大宮高等学校
 - 宮崎県立宮崎東高等学校
- 鹿児島県
 - 鹿児島県立開陽高等学校
 - クラーク記念国際高等学校 鹿児島分室
 - 鳳凰高等学校
- 沖縄県
 - 沖縄県立首里高等学校
 - 沖縄県立那覇西高等学校
 - 沖縄県立普天間高等学校
- 海外
 - Gyeonggi Suwon International School
 - メリーランド州立 ウィンストン・チャーチル 高等学校

高校生福祉文化賞エッセイコンテストとは

「福祉」という言葉から、ハンディキャップのある人への社会的援助やボランティア活動を連想する人は少なくないでしょう。「福祉（ふくし）」という言葉の本来の意味は「人のしあわせ」です。したがって、100人の人がいれば100通りの「ふくし」があってもいいはずです。

「36℃の言葉」というキャッチフレーズは、既存のイメージだけではなく、応募者自身の体温が伝わる言葉で「ふくし」を語ってほしいという思いが込められています。エッセイを書くことが、「ふくし」の本来の意味を吟味して身近にある幸せを考え、また自分自身を見つめ直すきっかけになれば、と願っています。初めて実施した2003年度は、5,550点に上る応募がありました。昨年、第15回の応募総数は9,204点。開催回数を重ねるにつれて、様々な学校から多くの高校生が応募していただきます。800字という文字数は生徒にとって書きやすく、テーマも取り組みやすいものであると、全国の高等学校の先生方から評価をいただいています。

ご指導いただいた高等学校の先生方からのご意見

第15回高校生福祉文化賞エッセイコンテストの実施時に先生方からお寄せいただいたご意見の一部を紹介します。

本コンテストを通して、生徒が予想以上に様々な事を考えて生活していることが分かり、生徒理解にもとても役立ちました。また、このエッセイを書き終えて感想を尋ねたところ、「改めて自分の地元について考えるいい機会でした」「福祉についての考えが介護だけではなくと変わりました」「書き上げられて嬉しかった」と前向きな意見が多く、参加してよかったと思えました。機会があれば、来年度も是非参加したいです。

◎愛知県立南陽高等学校 佐久間 綾花 先生

グループワークで発表しあいました。記述力を向上したかったのですが、生徒たちにとって、これまでエッセイというものは読むだけのジャンルでした。今回自分で作文することで、世に出ているエッセイがいかに優れているか実感し、また、書くことで自己をみつめられて、よい機会になったと喜んでいました。

◎長野県松本蟻ヶ崎高等学校 宮崎 美代子 先生

本校のドッグケアコースでは、年に10回ほど特別支援学校や特別養護老人ホームでドッグセラピーを行っています。それは今回のエッセイコンテストと同じく、まさに「人のしあわせ」を感じるものです。想いを言葉にする良い機会となり、今回の応募が初めての挑戦でしたが、今後も恒例となるようにしたいと考えています。ありがとうございました。

◎徳風高等学校 桑村 純子 先生

「福祉=人のしあわせ」というリーフレットの言葉に、深く納得し、生徒たちにも、ぜひ考えてみてほしいと思えました。①～④の分野を具体的に示してあることで生徒の視野を広げ、テーマへの切り口が考えやすかったと感じます。大変取り組みやすいコンクールだと思いました。

◎大分高等学校 井村 慶子 先生

※事業賛同のご意見のほか、締め切り期日、応募生徒への励みとなる賞の拡大、新たな企画提案、応募方法への希望などのご意見も寄せられています。
※先生方の高校名は第15回高校生福祉文化賞エッセイコンテスト応募時の在任校を記しております。

生徒の発信能力向上のよき機会として、年間学習計画の中に位置付けています。特に、これから論理的な文章構成力を育成しようとする段階にある生徒には、過負担にならず、それでいて無理なく問題へ導入していけるので、貴学のコンテストは最良のツールだと、感謝しています。

◎千葉県立松尾高等学校 峰島 雄一郎 先生

前任校で実施した際、生徒の普段とは違う一面を見ることができ、関係を作る上でよいきっかけとなりました。また、小論文指導などの文章力を上げる指導をしていく中で、生徒にとって身近な話題で、比較的書きやすいエッセイから始められたことがよかったので、参加しました。

◎静岡県立富士宮北高等学校 小山 典子 先生

生徒たちの文章を書く機会・経験を増やし、自分の思いを文章で表現する力・文章力を身につけてもらいたいと思い、毎年参加させていたいております。

◎出雲西高等学校 新田 篤生 先生

心温まる話は、感受性豊かな高校生の「心の肥やし」になると思っています。表現の授業の中で、入賞作品の中から数編をプリントして読ませ、感想を述べてもらったところ、素直に感動している生徒が多かったです。これだけでも有効ですが、数名の生徒の創作意欲をかき立ててくれたところに、この企画の素晴らしさがあると思います。

◎茨城県立小瀬高等学校 高野 昌俊 先生

この春に卒業させた3年生の進路指導をする過程で、あまりにも文章を書いた経験が少なすぎることを痛感しました。分量、テーマとも取り組みやすいコンテストを探していたところ、貴学のコンテストが目に入り、参加することにしました。文章を書くよい機会となりました。

◎兵庫県立西宮南高等学校 中嶋 智之 先生

「文化・芸術分野入学試験」

この入学試験では、文化系部活動や各種研究大会等の結果を評価します！出願資格の一つとして、「各分野（*1）のコンクール・コンテストなどにおいて高校生として優れた実績を有する方」を位置づけています。

（*1）吹奏楽、合唱、放送、囲碁、将棋、ボランティア、実業系高校の各種研究大会等。

この「エッセイコンテスト入賞」も左記の出願資格としてみなされます。本入学試験の募集学部・学科、専攻・専修、定員、出願資格等の詳細は、入試ガイド・入学試験要項でご確認ください。入学試験に関するお問い合わせは、日本福祉大学入学広報課（TEL:0569-87-2212）までお願いいたします。

「36℃の言葉」エッセイを書くときのポイント

◎自分ならではの視点を見つけよう。

文章力も大切ですが、「いいところに気づいたね」という独特な視点を大事にしたいです。「36℃の言葉」とは作者自身の体温（体験）が伝わることを期待したものです。体験にもとづく作者なりの見方・考え方などにぜひ、挑戦してみてください。

◎作品タイトルを工夫しよう。

作品タイトルや書き出しに工夫が見られると読み手の期待感も高まります。逆に、最後の数行が無理矢理まとめた感じだと読後感が悪くなります。タイトル・書き出し・締めくくりを気を配りましょう。

◎自分の言葉で表現しよう。

「エッセイを書く」「応募する」となると、つい背伸びをして、無理に難しい言いまわしや漢字を使いがちです。平凡な言葉でも、吟味して選びぬいた自分の言葉で表現すると、読者の心を打つエッセイになります。

◎会話文をうまく使おう。

会話文をうまく使うと、文章が生き生きとした表現になります。日常的に使っている会話を書いた方がその人らしさが出て、強い印象が残ります。

◎身のまわりや社会の事象に対して関心をもとう。

「どうして?」「なぜだろう?」「私との関わりは?」。日頃から、身のまわりや社会の事象に対して関心をもつことで、「これを書きたい」という素材がきっと見つかります。興味がわいてきたら、さらに本を読んだり、体験してみたりすると自分の考えも深まり、あらたな気づきもあるでしょう。表現することがきっかけとなり、社会を動かすこともできます。思いを巡らしながら書いてみましょう。

◎誤字脱字は減点の対象に。

どんなに内容が良くても、誤字脱字、読みにくい文字は減点の対象になります。また、読み手を意識して段落分けをし、改行することは有効なテクニック。書き終わったら、必ず読み返してみましょう。

導入教育の教材として『はじめてのふくし*』もぜひご活用ください。

■第15回を振り返って

第15回の応募総数は9,200点を超え、第14回より600点以上増えました。特に個人応募作品数が前年より増え、優れた作品が多かったことが大きな特徴でした。好き嫌いは分かれても、読む人に圧倒的な感銘を与える作品が最終的に最優秀賞や優秀賞に選ばれており、難しい言葉を使うのではなく、その人ならではの体温を感じられるような視点・表現の作品を、今後も期待しています。



第15回の授賞式の様子。賞状と記念品が手渡されました。

*「ふくし」を幅広い視点から理解していただく小冊子。ご希望の方は、以下の資料請求先、もしくは作品送付シートにてお知らせください。

審査員からのメッセージ

自分を信じ、表現する勇気を。

目を大きく開いて、まず自分のまわりを若者らしい自由な眼で見ることから始めましょう。必ずそこにびっくりするような発見があるはず。それはだれのものでもないあなただけの発見です。その時自分が感じたこと、考えたことを大切にしてください。そこから他の人にも通じ合える普遍性をもったものが育っていくのです。エッセイを書くことはそこからしか始まりません。一番大切なのはあなた自身です。評価を気にせず、自由な気持ちで書いてください。自由な気持ちがあれば、なにごとくも生まれてきます。今若い人たちに求められているのは、自分を信じ、表現する勇気です。36℃の体温が発する、だれのものでもない力あふれる作品を期待します。

■審査員紹介

角野 栄子(作家、日本福祉大学客員教授) / 杉山 邦博(元NHKアナウンサー、日本福祉大学客員教授) / 川名 紀美(元朝日新聞社論説委員、日本福祉大学客員教授) / 久野 研二(国際協力機構[JICA]国際協力専門員、日本福祉大学客員教授) / 金澤 泰子(書家、日本福祉大学客員教授) / 板垣 哲也(朝日新聞社論説委員) / 古内 由美子(マナビジョンブック編集部編集長) / 児玉 善郎(日本福祉大学学長)



■表紙イラスト作者の紹介 / ITOKiN(イトキン)

アーティスト。2005年日本福祉大学卒業。人々を元気にしたいという思いから、青・赤・黄3色でアート制作。2012年から「MAKE smile Project」を掲げ、似顔絵を描くことで、世界中で出会った人を笑顔にしつづけている。その他、各種イベントでのライブイベント、高等学校への講演など幅広く活躍中。



日本福祉大学

◆問い合わせ・資料請求先
日本福祉大学教育文化事業係 〒460-0012 名古屋市中区千代田5-22-32
TEL:052-242-3045 Eメール:18essay@ml.n-fukushi.ac.jp
ホームページ(エッセイコンテスト) <http://www.n-fukushi.ac.jp/50th/essay/>
◆作品送付先 ※詳細は、募集要項をご覧ください
株式会社TADコーポレーション「日本福祉大学高校生福祉文化賞」事務局
〒520-1102 滋賀県高島市野田1678

36°C の言葉。

第 16 回

ちょっぴりいい話、伝えます。

高校生福祉文化賞 エッセイコンテスト

受付
N.O.
(※主催者記入欄)

指導教員用作品送付シート (団体応募用)

フリガナ 先生の氏名					担当教科	
フリガナ 先生の氏名					担当教科	
学校名	立 高等学校 (校・キャンパス)					
応募点数 ※できればご記入ください。	分野① 点	分野② 点	分野③ 点	分野④ 点	合計 点	
◆貴校のご参加状況について お聞かせください。	1) 今年度初参加 2) 昨年度から参加		3) 3回以上継続的に参加 4) わからない			
◆どういった場面で 活用されましたか。	●教科の時間 (科目名) 1) 国語 4) 小論文指導関連の教科 2) 家庭 5) 福祉関連の教科 3) 公民 6) その他、学校設定教科 () ●対象学年 (年・全学年)			●教科以外の時間 1) クラブ活動 4) その他 () 2) 休暇中の課題 3) 補習・自習の課題 ●対象学年 (年・全学年)		
◆エッセイコンテストへの ご参加の理由を お聞かせください。						
◆ご覧になられた エッセイコンテストの告知 全てに○をおつけください。	1) 高校に送付されたチラシ 2) 日本福祉大学のホームページ		3) 朝日新聞の広告 4) 日本福祉大学発行「はじめてのふくし」		5) その他 ()	
◆本企画について 先生方のご意見、 活用に向けたご要望を お聞かせください。						
◆「第15回高校生福祉文化賞 エッセイコンテスト入賞作品集」、 「はじめてのふくし(*)」 送付を希望されますか(無料)。	●第15回高校生福祉文化賞エッセイコンテスト入賞作品集 1) 希望する (冊) 2) 希望しない		●はじめてのふくし 1) 希望する (冊) 2) 希望しない		*「ふくし」を幅広い視点から 理解していただく小冊子 (参照：裏面「目次」)	
発送までに1週間程度かかります。何卒ご了承のほどお願いいたします。						
◆ご記入いただきました学校名・先生の氏名やご意見を、次年度の募集要項にて使用させていただくことがございます。 掲載不可の方はチェックボックスにチェックをお願いいたします(掲載時には改めてご連絡いたします)。----->						<input type="checkbox"/> 掲載不可

応募締切
7月31日(火)
★当日消印有効

- 応募作品に本作品送付シート1枚を添付の上、送付してください。
- 複数必要な際は、お手数をおかけいたしますがコピーしてご使用ください(入力可能な様式も以下ホームページからダウンロードできます)。
- 原稿用紙等を使用して作品が複数枚になる場合は、2枚目以降にも氏名を明記し、ホチキスを用いないで送付してください。

1957年、日本初の4年制社会福祉学部発足。
日本福祉大学が誕生しました。



地域に根ざし、世界をめざす「ふくしの総合大学®」
日本福祉大学

◆高校生福祉文化賞エッセイコンテストの問い合わせ先
日本福祉大学教育文化事業係 TEL: 052-242-3045 Eメール: 18essay@ml.n-fukushi.ac.jp
◆高校生福祉文化賞エッセイコンテストのホームページ <http://www.n-fukushi.ac.jp/50th/essay/>

目次

1	「ふくし」って何だろう？	2
	1 だれもが持っている幸せになる権利	3
	COLUMN1 世界人権宣言	
	COLUMN2 ユネスコ学習権宣言ー学ぶことの大切さ	
	2 「いのち」の尊さ	6
	COLUMN3 食べること、生きること	
	COLUMN4 被災地での学生ボランティア活動	
	3 豊かな「くらし」とは何か	9
	COLUMN5 豊かな国は？	
	4 「いきがい」を持つこと	10
	COLUMN6 スポーツの持つ力	
2	「ふくし」の広がり	12
	1 憲法25条からの広がり	13
	2 「ふくし」を支えるさまざまな領域	13
	3 「ふくし」をつなぐソーシャルワーカー	14
	COLUMN7 NHKドラマ10「サイレント・プア」のソーシャルワーカー	
	4 身近な生活の場を「ふくし」社会に	15
	COLUMN8 0歳から100歳の地域包括ケア～誰もが住みやすい地域づくりをめざして～	
3	「ふくし」の課題とその解決策を考えてみましょう	17
	1 「住みなれた地域でくらし続けたい」という高齢者の思いを支えるには？	18
	COLUMN9 「モーニングカフェ」で団地の住民が交流	
	COLUMN10 企業とのコラボレーションで買い物支援	
	2 だれもが安心してくらしをまちは？	21
	COLUMN11 「障害」をどう表記するか	
	COLUMN12 ダウン症の書家 金澤翔子さんの活躍	
	3 子どもが健やかに成長するには？	24
	COLUMN13 子どもの権利条約	
	COLUMN14 不登校の子どもとつくるフリースクール	
	4 若者や家族を大切に社会にするには？	26
	COLUMN15 大学生ボランティアによる学習支援	
	5 路上生活者（ホームレス）をどのように見えていますか？	27
	COLUMN16 ビッグイシューの活動	
	6 福祉と環境保全是はむすびつくの？	29
4	「ふくし」の仕事	30
	1 より豊かな生活を支える「社会福祉」の仕事	31
	COLUMN17 社会福祉士と介護福祉士のちがいは？	
	COLUMN18 「児童養護施設」の役割	
	COLUMN19 「家裁の人」が描く、他人を思いやる心	
	2 「人」を育てる「ふくし」の仕事ー保育・教育にかかわる職業（教職）	34
	COLUMN20 心のおちつき部屋	
	3 広がる「ふくし」の仕事	37
	COLUMN21 スポーツに関わるふくしの仕事	
	COLUMN22 CBID	
	OB・OGインタビュー	42
5	「ふくし」の歴史	47
	1 慈善活動から社会事業へ	48
	2 そしてノーマライゼーションの社会へ	48
	COLUMN23 地域共生社会をつくる	
6	「ふくし」の魅力とこれから	50
	ー在学生からのメッセージー	
	GUIDE 日本福祉大学は「ふくし」を学び研究するところ	53